

分科会発表

2025 年度 第 31 回 固定チームナースング全国研究集会 発表演題一覧

第 1 会場 3F 日経ホール 口頭発表

座 長 金沢医科大学病院 大河 正美

J A 長野厚生連 南長野医療センター篠ノ井総合病院 青木 涼子

I M S グループ 板橋中央総合病院 山内 瞳

S Y シンフォニー 山口 聖子

第 I 群-1 【人材育成 I】 13 : 40～14 : 30

演題No.	演題名	施設名／発表者
I -1-1	退院遅延リスク患者の退院支援が遅延しない取り組み ～日々リーダーの役割を活かすフローチャートの活用～	金沢医科大学病院 山野 朋江
I -1-2	日々のチーム活動に責任を持つ日々リーダーの育成 ～日々のチーム活動を再構築させていくために～	医療法人明徳会（財団） 総合新川橋病院 下郡 美香
I -1-3	固定チームナースング再導入への取り組み ～継往開来～	IMS グループ 春日部ロイヤルケアセンター 芳賀 貴資
I -1-4	副部長が行う日々リーダーを育成する師長への支援	IMS グループ イムス札幌消化器中央総合病院 岩瀬 奈緒子

第 I 群-2 【人材育成 II】 14 : 40～15 : 40

演題No.	演題名	施設名／発表者
I -2-1	産婦人科病棟固定チームナースング再導入 ～チームで実践する産前・産後の育児支援～	IMS グループ 板橋中央総合病院 古川 絢佳
I -2-2	脳卒中患者の嚥下障害に関連した呼吸管理について ～カンファレンスを用いた個別性のある看護計画の立案～	IMS グループ 高島平中央総合病院 佐藤 誠治
I -2-3	固定チームナースングを導入した受け持ち患者への継続ケア 透析室での下肢トラブルを予防する小集団活動	IMS グループ 新葛飾ロイヤルクリニック 鈴木 生恵
I -2-4	手術室における小集団活動を通じた受け持ち看護師の育成 ～個別性のある看護計画～	IMS グループ イムス明理会仙台総合病院 長谷川 琴奈
I -2-5	個別性のある看護計画を立案できる受持ちナースの育成 ～情報共有シートを活用して～	石川県立中央病院 松平 明美

第2会場 4F ホワイエ 示説発表

座 長 J A長野厚生連 長野松代総合病院 大日方 美貴子

I M S グループ クローバーのさと イムスホーム カウピリ板橋 猪股 恵子

第II群 【ポスター発表】 13:40～14:20

演題No.	演題名	施設名／発表者
II-1	情報共有の大切さ ～患者にとって良い環境づくりの第一歩～	IMS グループ 北小田原病院 河野 寿子
II-2	患者・家族の意向に沿った時機を逸しない在宅療養移行への取り組み ～スタッフの実践力向上にむけた関わり～	関西医科大学総合医療センター 光峰 登紀子
II-3	応援機能を活用した看取りの看護 ～看護と介護の連携～	IMS グループ 仙台ロイヤルケアセンター 伊藤 久美子

第II群 【ポスター発表】 14:35～15:15

演題No.	演題名	施設名／発表者
II-4	下肢浮腫を有するがん患者に対する保湿ケアの実践	春日井市民病院 市川 仁一
II-5	回復期リハビリテーション病棟における身体拘束解除に向けた取り組み	IMS グループ 行徳総合病院 染谷 理絵
II-6	認知症ケア・せん妄ケアに関する取り組み	JA 長野厚生連 南長野医療センター 篠ノ井総合病院 石井 美智子

第3会場 6F カンファレンスルーム A 口頭発表

座 長 J A長野厚生連 長野松代総合病院附属若穂病院 北澤 佐智子
 I M S グループ イムス横浜狩場脳神経外科病院 宮田 正信
 名古屋市立大学病院 松井 幸子

第Ⅲ群-1 【目標管理：基本的ニーズに関する看護ケア】 13：40～14：30

演題No.	演題名	施設名／発表者
Ⅲ-1-1	終末期がん患者の意向を尊重した排泄方法選択への取り組み ～患者にとって優先すべき安楽を考えた段階的な排泄支援～	自治医科大学附属病院 河上 理沙
Ⅲ-1-2	早期から行う嚥下機能向上を目指したチーム介入 ～経口摂取を諦めない取り組み～	IMS グループ 高島平中央総合病院 飯塚 麻美
Ⅲ-1-3	患者の活動時間、活動意欲の向上を目指して ～コロナ禍より停滞していたアクティビティの再開を通じて～	JA 長野厚生連 長野松代総合病院附属若穂病院 西澤 尚輝
Ⅲ-1-4	入浴出来ない患者の清潔ケアの見直し ～泡洗浄を用いた部分浴の検討～	JA 長野厚生連 北信総合病院 小林 さゆり

第Ⅲ群-2 【継続看護・その他】 14：40～15：30

演題No.	演題名	施設名／発表者
Ⅲ-2-1	外来における心不全患者への継続看護 ～外来と病棟で統一した心不全手帳の活用～	JCHO 徳山中央病院 畠中 京子
Ⅲ-2-2	在宅・病院での点の療養を線で結ぶ ～外来での継続看護の実践～	奈良県立医科大学附属病院 岡本 由佳里
Ⅲ-2-3	患者状況に合わせた意思決定の情報共有 ～多職種間に繋げるプロフィール～	愛知厚生連 稲沢厚生病院 大澤 妙子
Ⅲ-2-4	災害時安全に避難誘導するための取り組み	佐久市立国保浅間総合病院 佐塚 容子

第4会場 6F カンファレンスルーム BC 口頭発表

座 長 医療法人社団 羊蹄グリーン病院 押野 郁治
飯田市立病院 大原 佐江子
IMS グループ 板橋中央総合病院 須藤 歩

第IV群-1 【固定チームナーシング導入・再導入】 13：40～14：30

演題No.	演題名	施設名／発表者
IV-1-1	責任のある継続的な介護・看護サービスのために ～介護看護提供方式「固定チームナーシング」を導入して～	グリーンビレッジ蔵 井上 博之
IV-1-2	固定チームナーシング再導入における“共に考える”看護実践 患者・家族の思いを看護計画へとつなげる取り組み	IMS グループ 北小田原病院 坂元 亮二
IV-1-3	ICUにおけるドレーン・ライン類自己抜去減少に向けた取り組み 固定チームナーシング再導入の中で得た気づき	IMS グループ 行徳総合病院 鶴埜 珠理
IV-1-4	地域連携室における固定チームナーシングの機能を 活用した多職種合同チーム作り ～患者・家族が安心して在宅療養を送るために～	郡上市民病院 畑佐 有美

第IV群-2 【応援機能・共同業務・その他】 14：40～15：30

演題No.	演題名	施設名／発表者
IV-2-1	患者に適した食事の提供に向けた取り組み ～食形態評価表の導入～	飯田市立病院 伊藤 悠佑
IV-2-2	外来と通所リハビリにおける応援機能の活用 ～受け持ち看護師を導入した継続看護～	IMS グループ 山形ロイヤル病院 笹原 愛
IV-2-3	緊急入院した消化器疾患患者に対する退院後の食生活改善に向けた介入 ～入院前の食生活の情報収集を基に栄養士と情報共有～	飯田市立病院 大澤 真由
IV-2-4	看護副師長の訪問看護ステーション研修から見てきた 在宅療養支援の現状と課題 ～ロールモデルとしての役割を通して～	関西医科大学附属病院 中島 せい子

第5会場 6F セミナールーム1 口頭発表

座 長 中国四国固定チームナースング研究会 山本 喜志恵
医療法人社団星風会井上病院 井上クリニック 藤塚 隆子
名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院 木下 英里

第V群-1 【役割と業務】 13：40～14：30

演題No.	演題名	施設名／発表者
V-1-1	急激な人材不足による固定チームナースング機能不全からの取り組み ～医療型療養病棟師長の組織改革～	山口県済生会豊浦病院 林 美代子
V-1-2	医療型療養病棟における夜勤の看護補助者配置人数変更および 2交代制導入のためのタスク・シフト/シェア	山口県済生会豊浦病院 新井 智
V-1-3	日々リーダーの役割を共有することで軽減する個人の精神的負担 看護意欲の向上に向けた取り組み	明理会東京大和病院 佐藤 智恵
V-1-4	個別性のある退院支援ができる受け持ち看護師の育成	益田赤十字病院 吉村 浩子

第V群-2 【ケアの質】 14：40～15：30

演題No.	演題名	施設名／発表者
V-2-1	先天性心臓血管外科術後の学童を対象とした せん妄予防ケア確立に向けた取り組み	自治医科大学 とちぎ子ども医療センター 堀江 雅展
V-2-2	気管切開術後患者を安全に看護するための取り組み ～学習会と患者家族に向けたパンフレット作成を実施して～	JA 長野厚生連 長野松代総合病院 久保田 那佳子
V-2-3	脳血管造影検査・血管内治療後の合併症予防に関する取り組み	佐久市立国保浅間総合病院 三浦 萌
V-2-4	患者が主体的に PONV（術後悪心・嘔吐）へ対応できるための支援 ～リスクや対応方法を患者と共有して～	自治医科大学附属病院 相馬 友里

第6会場 6F セミナールーム2 口頭発表

座 長 飯田市立病院 篠原 夏子

I M S グループ 横浜旭中央総合病院 大上野 佐江子

みやぎ県南中核病院 安部 桂子

第VI群-1 【カンファレンス】 13:40～14:30

演題No.	演題名	施設名／発表者
VI-1-1	HCU における家族ケアに対する意識向上に向けた取り組み	長崎県島原病院 坂本 みゆき
VI-1-2	モヤモヤ MEMO および倫理カンファレンスにより 病棟全体で倫理的感受性を高める取り組み	日下部記念病院 佐藤 守
VI-1-3	チーム内でケアの統一化を目指して ～皮膚トラブル改善に向けた取り組み～	総合病院岡山協立病院 猪野塚 志帆
VI-1-4	チーム内カンファレンスによる対話の活性化が実践力と 看護の統一性に与えた影響 ー固定チームナーシングにおける質向上の取り組みー	関西医科大学附属病院 橋本 麻衣

第VI群-2 【ACP・倫理】 14:40～15:30

演題No.	演題名	施設名／発表者
VI-2-1	子供への病状の伝え方に迷う患者への取り組み ～チャイルドケア～	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 本宮 真純
VI-2-2	固定チームナーシングにおける小集団活動の取り組み 患者のストレングスに着目した看護実践と看護倫理向上に 向けたチーム活動	日下部記念病院 山本 卓史
VI-2-3	認知症患者の行動制限とスピーチロックを考える ～そのベッド柵・薬は妥当ですか？それってロック？～	IMS グループ 北小田原病院 山崎 寧々
VI-2-4	ACP の可視化に取り組み、患者の意向をチームで共有、協働へ ～患者の希望を叶えることができる病棟に～	関西医科大学総合医療センター 合田 弥生